野呂川には貴重なヤマトイワナが生息しています。ヤマトイワナを未来に引き継ぐために、みんなで守りましょう。

ヤマトイワナとその仲間たち

イワナはサケ科に属し、日本の本州にはイワナの仲間が4種類います（図1）。
北海道から東北にかけて分布するアメマス、中部地方に分布するニッコウイワナ、中部地方の太平洋側と紀伊半島のごく一部に分布するヤマトイワナ、山陰地方のごく限られた地域に分布するゴギがいます。

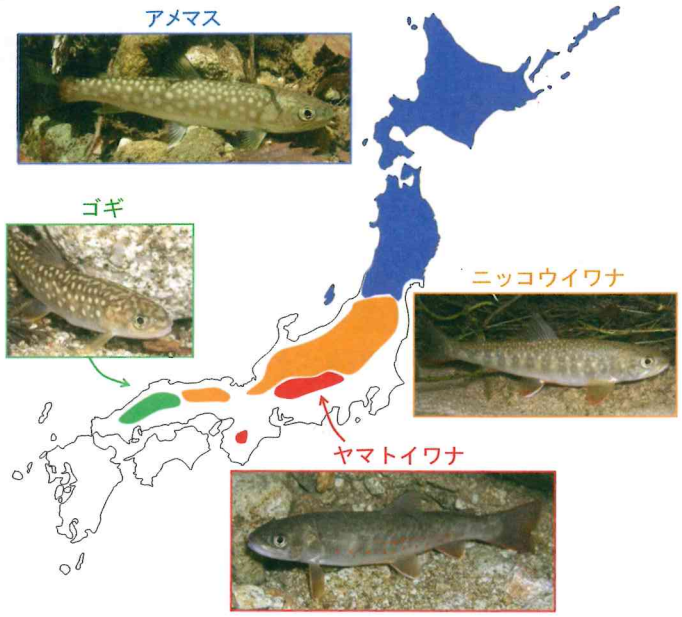

図1　日本のイワナ分布図　撮影 森田健太郎

図2　南アルプスのヤマトイワナ　撮影 坪井潤一

図3　南アルプスのニッコウイワナ　撮影 坪井潤一

ヤマトイワナ

ヤマトイワナは、全長約25cm、体色はやや黒ずみ、からだには橙色の斑点が目立ちます（図2）。

ヤマトイワナは本州中部富士川以西の太平洋側に注ぐ河川、紀伊半島熊野川水系など、国内でもごく限られた流域に分布する日本固有亜種です。

山梨県では、富士川流域の最上流域(野呂川流域など)に生息していて、2005年山梨県レッドデータブックでは、「絶滅のおそれのある地域個体群」に位置づけられ、ヤマトイワナの保全が急務になっています。

図4　ヤマトイワナの幼魚たち　撮影 坪井潤一

図5　婚姻色が見られるヤマトイワナ　撮影 坪井潤一

ヤマトイワナとニッコウイワナの違い

ヤマトイワナはからだの側面に橙色の斑点が目立ち、それに対して全国で広く養殖されているニッコウイワナは橙色の斑点が薄く、白点が多いことで見分けができますが（図3）柄だけでは判断できない個体も数多く見られます。図4のイワナは、遺伝子解析の結果などから、全てヤマトイワナであることが分かっていますが、幼魚の時期は小さな白点が見られます。逆に、繁殖期が近づくと、体色は黒っぽくなり、橙色の鮮やかな斑点が目立つようになります（図5）。

このように、同じ南アルプスにすむヤマトイワナでも、年齢や時期によって私たちに見せてくれる表情が違うのです。

～ヤマトイワナは南アルプスの宝物～

南アルプスのヤマトイワナはごく限られた流域にひっそりと暮らしています。これまでの研究で、ヤマトイワナは南アルプスの冷涼な環境に適応して、ゆっくりと成長し、とても長生きなことが分かってきました。

乱獲によって南アルプスのヤマトイワナが絶滅しないように皆さまのご理解とご協力が必要です。

平成26年1月1日より早川漁業協同組合の遊漁規則が改正になりました!

①野呂川流域におけるヤマトイワナの繁殖期が9月下旬からと非常に早いため、キャッチ&リリース区間（地図の緑色で示した区間）では、9月16日から3月14日まで禁漁となります。

②キャッチ&リリース区間（地図の緑色で示した区間）では、疑似餌（ルアー、フライ）のみの釣りとし、釣り上げた魚を傷めないよう速やかにリリースをお願いします。

③禁漁区間（地図の赤色で示した区間:前白根沢）での釣りはご遠慮ください。種沢として保全することで、野呂川本流でも多くの魚が釣れるようになると期待されます。

※なお、釣り人や愛好家による県への届出がない放流は、山梨県内水面漁場管理委員会の指示で禁止されています。

南アルプスの宝でもある ヤマトイワナを未来に引き継ぐため、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●早川漁業協同組合

〒409-2713　山梨県南巨摩郡早川町保509　早川町商工会内

TEL.0556-45-2302

●南アルプス市　みどり自然課

〒400-0395　山梨県南アルプス市小笠原376

TEL.055-282-7259